

県産品ダンボール堆肥用基材 「いっぺーじょーとー君」



始めるのに必要な道具

- ダンボール(新聞紙片面程度の大きさとダンボールの底を2重にするもの)
- スコップ(基材と生ごみを攪拌します)
- ダンボールを底上げするもの(古雑誌, 育苗パレット, ペットボトル等)
- 虫除けとしてダンボールの上部を覆うもの(使い古しのTシャツ, 不織布, 新聞紙)

○使い方



- ①ダンボールを準備します。
底を2重にして基材を投入します。箱の1/3～1/2程度。
※ダンボールは直接床に接しないように底上げする。



- ②生ゴミを投入します
1日300～500g程度で野菜クズ、果物の皮、残飯など有機物ならOK。※ビニールや紐等は入れないでください。

- ③適度にかき混ぜて空気を入れます。
微生物が呼吸して発熱します(45℃前後)
※生ゴミを入れない日もかき混ぜて空気を入れる。



- ④1回のダンボールと基材で約15kg程度の生ゴミが処理できます。できた堆肥はすぐに使えますが、1ヶ月程度熟成させて成分を安定させるとより効果的に使えます。

○注意事項

- 1)ダンボール箱の上面は新聞紙や古着などで覆い虫等の混入を防いでください。
例)台所の三角コーナー等に置きっぱなしの生ゴミには虫の卵が入っている可能性もあります。
生ゴミは溜めずに毎日投入することを心がけましょう。
- 2)肉や魚などを入れると多少臭いが出ますが順調な堆肥化をしていれば臭いは3～4日で消えます(投入量により変わります)
- 3)良質堆肥の生産ではなく生ゴミの減量化に重点を置いているので特に投入を控える生ゴミはありません。
- 4)堆肥の水分を観察してください。
混ぜた後のスコップに堆肥がたくさんくっつくようであれば堆肥が水分過多になっています。良好な発酵を促すために発酵チップを注ぎ足して水分調整を行ってください。順調な水分含量の時は混ぜた後のスコップに堆肥がこびりつきません。

詳しい基材の使い方、生ゴミの堆肥化日記はコチラ↓

<http://dambocompost.ti-da.net/>

株式会社 美玉開発

本社: 沖縄県那覇市字仲井真356番地の1 tel: 098-831-7143

リサイクルセンター: 沖縄県南風原町字神里409番地 tel: 098-889-7143 FAX: 098-889-8966

<http://www.mitama-kaiatsu.co.jp> E-mail: info@mitama-kaiatsu.co.jp



生ごみの処理について

家庭から出される「燃えるごみ」の40%は生ごみです。そして生ごみの80%が水分です。つまり、3kgの「燃えるごみ」の中には1200gの生ごみがあり、960gの水分が含まれる計算です。

「燃えるごみ」の中に水分が多く含まれている場合、ごみ焼却施設の温度が下がってしまいます。焼却炉はダイオキシン類発生防止の観点から焼却時の温度(800℃)は下げることができないので、たくさんのエネルギーを使って高温を維持することになります。

たくさんのエネルギーを使って燃やすということはその分、CO₂も多く排出されますね。

ごみ処理場のエネルギーに掛かるお金も私たちの税金で賄われています。

各家庭からの生ごみを少しでも減らすことができれば、ごみ処理場で使用されるエネルギーの量を抑えることができ、その分発生するCO₂の量も抑制できることになります。

生ごみの排出量が減れば・・・

- ①ゴミ焼却場の使用エネルギーの軽減
- ②最終処分場の延命
- ③これまで廃棄していた有効資源の活用
- ④循環型社会の構築
- ⑤環境意識の高まり

ダンボール堆肥とは？

家庭から出る生ごみをピートモス等の基材とともに段ボール箱に入れ、その中で減量・堆肥化を行うものである

概要

もともとは庭などに設置する生ごみ堆肥化容器では冬季に凍結してしまうため、屋内で堆肥化するために北海道で発祥したといわれる。このため庭のない集合住宅でも使用可能である。

今では家庭ごみの減量化のため推進している自治体もある。段ボールコンポストは、容器として使用する段ボール箱が安価かつ入手が容易である点と、堆肥化に必要なとされる保温性と余剰水分を壁面から排出できる水分調整機能を持ち、経済面と機能面で優れている。

従来基材

保水性があり、かつ空気(酸素)を抱き込める素材が利用される。入手が容易である点からピートモスがよく利用されている。廃棄物を再利用する観点から、無料又は安価に手に入る場合はおがくずで代用することもできる。堆肥化の際にはpHを9程度に保つのが望ましいためピートモスの酸性を低減する目的でもみ殻くん炭を混入することも多い。若干取り扱いにくいのが、腐葉土の利用も可能である。腐葉土には豊富に好気性土壌微生物が付着しており、これを活用すると作成初期の分解を早めることができる。したがって、のこくずにピートモスないし腐葉土を少量加えたものも基材として好適である。なお、ピートモスは輸入品が主で、環境破壊といわれ代替品として、竹パウダーの利用などが見直されている。

県産品ダンボール堆肥用基材 「いっぺーじょーとー君」とは？



- ①新聞紙片面程度のスペース、簡易な方法で家庭から出る生ゴミを処理することができます。
- ②完成した堆肥を使ってガーデニング、花や野菜を育てることができます。
- ③原料は県内で発生する木屑を基材に用いるので地産地消につながります。
- ④原料の木屑は一度発酵済みなので微生物が豊富、臭いを抑え堆肥化が素早く行えます。

県産品であり廃棄物の有効利用、化石エネルギーの使用低減
美化意識、環境活動意識の高まり、食育への貢献